

『計量経済学の第一歩』

田中 隆一 (著)

正誤表

発行所 株式会社有斐閣
2015年12月20日 初版第1刷発行

ISBN 978-4-641-15028-7

©2015, Ryuichi Tanaka, Printed in Japan

本書の内容につきまして、下記の通り誤りがございました。
下記の通り、お詫びして訂正いたします。

第1刷（2015年12月20日発行）の正誤表

180 ページ, 上から9行目:

[誤]

$$\hat{V}[\hat{\beta}_1 | x_1, \dots, x_n] = \left[\frac{\sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x}) \hat{u}_i}{\sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})^2} \right]^2$$

[正]

$$\hat{V}[\hat{\beta}_1 | x_1, \dots, x_n] = \frac{\sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})^2 \hat{u}_i^2}{[\sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})^2]^2}$$

第 2 刷（2016 年 12 月 5 日発行）までの正誤表

187 ページ, 練習問題 7-D :

[誤]

「例 7.4 (175 ページ) では, 妻が労働市場で働くかどうかは夫の所得と 6 歳以下の子ども数に強く依存することがわかりました。」

[正]

「例 7.4 (175 ページ) では, 妻が労働市場で働くかどうかは夫の所得と 6 歳以下の子どもの有無に強く依存することがわかりました。」

第 8 刷（2020 年 9 月 20 日発行）の正誤表

127 ページ, 練習問題 5-2 (5) :

[誤]

「 y の総変動 (つまり標本分散に標本サイズを掛けたもの)」

[正]

「 y の総変動」

※この点は Amazon.co.jp のカスタマーレビューにてご指摘いただきました。ご指摘, 感謝いたします。

125 ページ, 4 行目 :

[誤]

$$V[\hat{\beta}_0 | x_1, \dots, x_n] = s^2 \left(\frac{1}{n} + \frac{x^2}{\sum (x_i - \bar{x})^2} \right)$$

[正]

$$V[\hat{\beta}_0 | x_1, \dots, x_n] = s^2 \left(\frac{1}{n} + \frac{\bar{x}^2}{\sum (x_i - \bar{x})^2} \right)$$

232 ページ, 第 4 節 2 行目の重回帰モデルの右辺第二項 :

[誤]

$$\delta_0 d_2$$

[正]

$$\delta_0 I(t=2)_t$$

$I(t=2)_t$ は時点 2 において 1 となるダミー変数です。

62 ページ, 定義 3.20 :

共分散の定義式の積分内の変数 X, Y は、正しくは小文字の x, y

63 ページ, 定義 3.22 :

見出しの「条件付き確率」を「条件付き確率密度関数」に変更。

222 ページ, 18 行目 :

[誤]

要因 A_i

[正]

要因 A_i

223 ページ, 7 行目 :

[誤]

$$DX_{ij} = X_{i2} - X_{i1}$$

[正]

$$DX_{ij} = X_{i2j} - X_{i1j}$$

※上記 6 点は、関東学院大学経済学部の平野敏弘先生、および、平野ゼミ参加のみなさんからご指摘いただきました。ここに記して感謝いたします。